

タイトル： 居宅とデイの二人三脚 ～連携したら笑顔も稼働も増えた件～

キーワード ※3つ記入。

旭川一のデイサービス	法人名	社会福祉法人 旭川たいせつ福祉会
生産性向上	施設種別	デイ
2040年に向けて	施設名	SKたいせつの郷

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 阿部 祐介	生活相談員	
	② 谷口 英湖	主任介護支援専門員	
	③		
	④		
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人
開設年月日	2020年11月1日	所在市町村	旭川市
市町村人口	313879 人	65歳以上人口 (高齢化率)	111,920 人 (高齢化率 35.1 %)
利用者定員数	25 人	利用者平均年齢	83.1 歳
職員数	13 人	職員数内訳	介護職 6名 (機能訓練指導員 3名) 看護職 2名
併設施設・事業	サービス付き高齢者向け住宅 居宅介護支援事業所 訪問介護事業所		
施設のサービスの概要	定員60名のサービス付き高齢者向け住宅にデイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護支援事業所が併設しています。地域貢献事業として週に2回デイサービスの施設を一般開放し、月に一回サ高住にて共生カフェを開催しています。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題</p> <p>旭川市内では、地域密着型も含め120件のデイサービスがあります。その中で運動に特化したデイサービスは35件あります。コロナ禍真ただ中の令和2年に「フィットネスデイサービス」としてopenし、5年目になります。「旭川で一番のデイサービス」を合言葉に、居宅介護支援事業所との懇意な関係性を築き稼働を上げていき、生産性向上に取り組む2040年に生き残れるデイサービスを目指しています。</p>	<p>③活動の成果と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 要支援のケースを中心に担当する事により、包括支援センターとの連携が密になり、支援の継続性や柔軟な対応が可能になった。 法人全体のケアマネ、相談員ミーティングをする事で、組織内の一体感や連携強化する事ができた。報告や成果の共有は業務の振り返りになっている。 なぜなぜ分析をすることによってより深いニーズの把握が可能となった。 理学療法士は1人から2人。2人から3人と増員したことで、個別訓練に対応できる幅が広がった。 席替えによって、日々のコミュニケーションが増えた
<p>②具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人内居宅、デイサービスの棲み分け（要支援者を中心にしている） 法人全体のケアマネ相談員ミーティング（各事業所が行動計画の振り返り） SKたいせつの郷全体の毎週ミーティング（行動計画に基づき、毎週なぜなぜ分析を行う） 機能訓練指導員の増員 事務所の席替え 	<p>④今後の課題</p> <p>デイサービス終了者が自法人のサービスにつながるケースが少ない。</p>
	<p>⑤参考資料など</p>